

山崎 千夏

YAMAZAKI Chinatsu



星巡り

陶

## 星巡り

Work of me, by me, for me. Feat.KUMA

自分にとって作品を制作するとは、ということなのか、何のために行うことなのか。

私は、自分の豊かさのために作品を作りたいと考える。自分の豊かさとは、かわいいものを見た時に感じる幸福感や高揚感で心が満たされていることである。しかし、日々心を満たし続けることは難しく、作品という媒体を使って、かわいいものを見た時に感じた幸福感や高揚感をそのまま残しておくために、私は作品を作るのである。

本作『星巡り』は、天稚彦草子絵巻の中で描かれる星を擬人化した一場面を題材にしている。天稚彦草子絵巻下巻第一段では、4つの雲に星の特徴を反映させた童子を乗せて、可愛いらしく童話のような世界を作り出している。

「宵の明星」は白い狩衣を着た美男な童子

「箒星」は箒を持った童子

「すばる星」は7人の童子

「明けの明星」は玉の輿に乗った童子

この場面の擬人化で用いられている童子を”くま”に変えて制作した。自作の中に何度も登場させているうちに、大切な感情を守ってくれる役割を担うようになった”くま”に、天稚彦草子絵巻を見た時の幸福感・高揚感を守って欲しいと考えたからである。

また、粘土の可塑性を用いてモデリングしていくことで、形を吟味し作品に物語を反映させていくことができるため、以前から粘土を使用して造形してきた。本作は、粘土で造形したものを焼成した陶製の作品である。日本の伝統的な陶芸技法を用いて、陶土や釉薬を使用することで、絵巻物が持つ歴史を感じさせる風合いや日本風の色味を本作品に取り入れたいと考えたため、素材として陶を選択した。

私にとって制作とは、私による私のためのものであり、それに力を貸してくれるのが、モチーフとしている”くま”と使用する素材である。かわいいものを見た時の幸福感でいつも心を満たせるように、これらの力を借り、作品を制作している。作品を作るということは、私自身の豊かさを形作ることである。